

1市の概要（H30年度）

人口	249,628人
保護率	2.1%

2支援状況調査（H30年度）

新規相談受付件数人口10万人当たり (件) 一月当たり	22.0
プラン作成件数人口10万人当たり (件) 一月当たり	3.4
就労支援対象者数人口10万人当たり (件) 一月当たり	1.1
就労・増収率(%)	44.1

3実施方法について

実施方法	直営（生活困窮世帯については相談支援事業と連携）
事業費	5,896千円（平成30年度）
理由 (直営)	○教育委員会など庁内関係各課や、学校など教育の現場における関係者との連携が図りやすい。
事業内容	○2名の教職員経験者を学習支援員として配置している。 (1名は常勤嘱託職員、1名は非常勤嘱託職員) ○学習支援会 ■生活保護受給世帯および生活困窮世帯（自立相談支援を受けている世帯）の中学1～3年生を対象。市内の公共施設において、週2回開催。 ■学習習慣・基礎学力の定着、コミュニケーション能力の向上に向けた取り組み。 ○家庭教育の相談支援 ■生活保護受給世帯および生活困窮世帯の小中学生を対象。 ■家庭訪問・来所・電話による、家庭教育の相談（学校や家庭における問題や悩みなど）に対する助言・指導。
その他 特記事項	○市内大学の教職志望学生ボランティアによる学習支援。 参加1回あたり、報償費2,500円を支給。 ○夏・冬休みには学習支援会を昼間に開催。（夏休みに限るが、小学4～6年生も対象に開催している。）

4事業実績（H30年度）

※中学3年生の参加 14人

学習支援会				家庭教育支援	
生活保護参加者	生活困窮参加者	開催回数	高校進学率※14人	中学生参加者	小学生参加者
21人	6人	95回	100%	6人	7人

5事業実施のポイント ～子どもの個性を伸ばす学習支援～

学生ボランティアとのマンツーマンによる取り組みを実施

- 弱点補強など、生徒が持ち込んだ教材により、学習能力に応じた支援を行っている。
- 互いに協力して教え合い、学び合い、言葉を交わす中で、コミュニケーション力を楽しく身に付けている。



生徒と学生ボランティアの声

- わからないところを何度も教えてもらい、勉強がわかるようになってからは、「高校へ進学したい!」と思うようになった。
- コミュニケーションをとるのが苦手であったが、生徒の表情や行動から内面を感じ取れるようになった。学習支援会へ参加できたことは、中学生にとっても大学生にとっても、すごく有意義な時間であった。

6取り組んで良かったこと

- 学習に集中できていなかった多動傾向にあった生徒が、きちんと席に座り、学習に集中できるようになった。
- 自己肯定感を持てなかった生徒が、笑顔が増え、声も大きくなり、周りの生徒とも積極的に関わられるようになった。